

『変革の時代における社会教育行政の役割』 ～地域の教育力向上のための方策～

（研究期間：平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月）

 <p>小樽市 Otaru City</p>	 <p>島牧村 Shimamaki Village</p>	 <p>寿都町 Suttsu Town</p>	 <p>黒松内町 Kuromatsunai Town</p>	 <p>蘭越町 Rankoshi Town</p>
 <p>ニセコ町 Niseko Town</p>	 <p>真狩村 Makkari Village</p>	 <p>留寿都村 Rusutsu Village</p>	 <p>喜茂別町 Kimobetsu Town</p>	 <p>京極町 Kyogoku Town</p>
 <p>倶知安町 Kutchan Town</p>	 <p>共和町 Kyowa Town</p>	 <p>岩内町 Iwanai Town</p>	 <p>泊村 Tomari Village</p>	 <p>神恵内村 Kamoenai Village</p>
 <p>積丹町 Shakotan Town</p>	 <p>古平町 Furubira Town</p>	 <p>仁木町 Niki Town</p>	 <p>余市町 Yoichi Town</p>	 <p>赤井川村 Akaigawa Village</p>

目 次

発刊にあたって 後志社会教育研修センター 所 長 和 田 徳 夫

はじめに 社会教育研究委員会 委員長 小 原 和 之

平成21～22年度調査研究について

- ・ 研究にあたって
- ・ 研究期間
- ・ 研究内容
- ・ 調査研究事業の目的
- ・ 研究概要
- ・ 研究経過

平成21年度 調査研究 《1年次》	1
■『地域の教育力の捉え方』の共有化と『現状』の把握	2
・ 理論研修『地域の教育力の捉え方』	
・ 現状把握・分析『後志管内の事例検証』	
■地域の教育力向上につながるポイント整理	7
■2年次研究に向けての着目点	8
【後志教育研修センター社会教育研修講座 開催状況】	8
平成22年度 調査研究 《2年次》	9
■地域の教育力向上のための人材活用の視点を探る	10
・ 理論研修『人材を活用した好事例』	
・ 実践検証『パワーアッププランの作成』	
【後志教育研修センター社会教育研修講座 開催状況】	19
研究のまとめ	20
1) 後志管内における地域の教育力とは	
2) 活用される人材とその効果	
3) 教育力向上に必要な3つのキーワード	
4) 人材の具体的な活用方策	
5) 人材による事業改善の具体的方策について	
6) まとめ	

発刊に当たって

後志教育研修センター
所長 和田 徳夫

後志教育研修センターでは、所員による調査研究事業を学校教育と社会教育の両分野で推進しております。

昨年度から、社会教育研究委員会では、研究主題『変革の時代における社会教育行政の役割』、サブタイトルを～地域の教育力向上のための方策～とし、ここに2年間研究の歩みを研究紀要として発刊されますことに対し、心より感謝申し上げます。

少子・高齢化、核家族化、働く親の増加等により、地域社会に対する意識が変化し、地域社会における人間関係の希薄化が進展しているという現状があります。そんな中、子どもは家庭や学校のみでなく、地域社会を含めた社会全体で育てるという意識の醸成が必要であるとも言われております。このため、社会教育の調査研究事業では、地域の教育力を焦点化し、地域の教育力の向上についての実践例や社会教育事業として取り組んでいる事例を収集し、改善を図るための検討を加えることにより、管内の社会教育の充実・発展に結びつくというねらいを持って取り組んで参りました。

あるレポートを読みますと、地域の教育力向上について保護者からのご意見が載っていました。

- 地域で安全に遊べる場所の確保が必要である。
- 親が積極的に地域社会とかわらなければ地域社会の教育力向上には結びつかない。
- 年配の方と公民館などでイベントや習い事等ができるようにしてほしい。
- 地域社会の教育力向上の前に、まずは家庭の教育力向上が必要である。

上記のことはもうすでにそれぞれの社会教育で取り組んでいるものもありますが、この調査研究を機に更に改善・充実を図っていくことをご期待申し上げます。

この研究紀要は、社会教育研究委員の長年にわたる研究成果であります。後志管内で大いに活用されることを願っております。

終わりになりましたが、この研究の推進に当たり、公務ご多用中の研究委員、ご協力いただきました管内社会教育主事会の皆様、また本研究にご支援、ご協力いただきました後志教育局をはじめ各市町村教育委員会、関係機関に厚く感謝申しあげ、発刊の挨拶といたします。

は じ め に

社会教育研究委員会

委員長 小 原 和 之

社会教育委員会では、研究主題を『変革の時代における社会教育行政の役割～地域の教育力向上のための方策～』といたしまして、“人材活用”に視点をあてた平成21年度から平成22年度にわたる2ヵ年研究を進めて参りました。

平成18年に、「教育の憲法」ともいわれる「教育基本法」が改正され、生涯学習の理念が明記されると共に、学校、家庭、地域が連携して教育を推進していく取組みが社会全体に求められております。

少子・高齢化社会、高度情報化社会など、情勢を表す言葉に「社会」はつきものであり、目まぐるしく変化を遂げる現代において、「社会教育」もまた、変化に対応していくために役割を果たしていかなければなりません。

しかし、急速な変化に対応していくためには、どのような「社会教育」が求められているのか。『変革の時代』といわれる現代社会において、社会教育は大きな課題を抱えてきているのかもしれない。

そして「地域の教育力」です。これまで当たり前のように感じられていた「地域社会」も、ライフスタイルの多様化と共に、無関心や個人主義など意識の変容をもたらした「地域」の存在すら危ぶまれるようなところもあるのではないのでしょうか。

こうした中において、本研究では「地域の教育力」の捉え方について、後志管内の現状に即した捉え方を示すと共に、地域の人々が、地域で抱える課題を解決することによって「教育力が向上する」ための方策を打ち出すための調査研究を進めて参りました。

地域という括りは幅広く、全てのケースにあてはまるとは限りませんが、社会全体として求められている「地域の教育力の向上」と、それぞれの地域が抱える「課題解決」の双方を両立し、社会教育行政のみならず、地域全体としてすみよい環境づくりが展開されるべく、本研究で指し示した「視点」や「効果」が、有意義かつ有効なものとして活用いただければ幸いと存じます。

終わりになりますが、後志教育研修センターの皆様方、ご多忙中にもかかわらず、本研究にご協力いただきました後志管内各市町村社会教育関係職員の皆様、そして特段のご支援をいただきました後志教育局をはじめとした関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成21～22年度調査研究について

1 研究にあたって

社会教育関連法の改正により、社会教育の充実に向けた法的整備がなされ、社会教育行政を取り巻く状況は今もなお「変革の時代」が続いていると捉えることができる。

中央教育審議会「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」（答申）では、生涯学習振興の具体的方策として、「国民一人ひとりの生涯を通じた学習支援とともに、社会全体で教育力の向上に取り組むこと」が基本的方向のひとつとなっている。

地域の教育力向上に向けた効果的な取り組みについて調査を行うとともに、教育力を向上させる具体的な事業や目指すべき支援体制の構築について、より効果的な社会教育事業の実施に向けた検証を行う。

2 研究期間 平成21年4月～平成23年3月（2年次）

3 研究内容

1) 理論研修・資料収集

地域の教育力のとらえ方について概念の共有化を図るとともに、その向上にむけた取り組みについて調査・研究を行う。

2) 実践・検証

各市町村の実践事例をもとに、現状や課題を把握し、教育力向上の方策について検証する。

4 調査研究事業の目的

地域の教育力の向上をどのように捉えるかの調査・研究を行うとともに、教育力を向上させる具体的な事業や目指すべき支援体制の構築について、進むべき方向性を共有することで、より効果的な社会教育事業の実施に向けての一助とすることを目的とする。

5 研究概要

1) 平成21年度（1年次目）

地域の教育力の概念の共有化について人材に着目し、人材活用の意義の共通理解、また、各市町村が行う既存事業において、地域の教育力（人材）の役割と機能性を検証し、効果的な社会教育事業の実施に向けた課題等の分析を行った。

2) 平成22年度（2年次目）

管内各市町村や全道、民間での事例から人材活用のポイントを探り出し、教育力向上の視点である「つながり」「意識・行動」「活動や交流の場」の3つキーワードと関連付けな

がらまとめ、各市町村の既存事業の改善に結びつけることで、地域の教育力向上の方策を探った。

6 研究の経過

1) 平成21年度研究経過

	日 程	協議・検討内容	
第1回	21. 5.22(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の概念整理について ・地域人材を活用した実践事例の収集と検証について 	社会教育研修講座について(運営展開案)
第2回	21. 6.30(火)		
第3回	21. 8.11(火)		
第4回	21. 9. 3(木)		
第5回	21.10. 5(月)	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の実態分析～「目指す地域の姿」の明確化と、そこに地域の教育力を作用させる意義 ② 実践事例の傾向分析～課題の整理 	
第6回	21.11. 9(月)		
第7回	21.12.14(月)		
第8回	22. 1.26(火)		
第9回	22. 3. 2(火)		

2) 平成22年度研究経過

	日 程	協議・検討内容	
第1回	22. 5.28 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力向上のための実践 ・市町村実践事例の収集・検証 	社会教育研修講座について(運営展開案)
第2回	22. 6.10 (木)		
第3回	22. 7.12 (月)		
第4回	22. 8. 3 (金)		
第5回	22. 9. 3 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の実態分析～「目指す地域の姿」の明確化と、そこに地域の教育力を作用させる意義 ② 実践事例の傾向分析～課題の整理 	
第6回	22.10. 5 (火)		
第7回	22.11. 8 (月)		
第8回	23. 1. 27(木)		
第9回	23. 3.15(火)		

7 研究委員

1) 平成21年度

役職	氏名	所属
委員長	小野寺 健	京極町教育委員会 (社会教育主事)
副委員長	藤本 篤	真狩村教育委員会 (社会教育主事)
書記	大島 恭介	共和町教育委員会 (社会教育主事)
講座担当	長尾 嘉雄	積丹町教育委員会 (社会教育主事【北海道派遣】)
協力員	栄田 三浩	後志教育局 (社会教育指導班主査)

2) 平成22年度

役職	氏名	所属
委員長	小原 和之	古平町教育委員会 (社会教育主事)
副委員長	大島 恭介	共和町教育委員会 (社会教育主事)
書記	淵野 伸隆	二七〇町教育委員会 (社会教育主事)
講座担当	長尾 嘉雄	積丹町教育委員会 (社会教育主事【北海道派遣】)
協力員	栄田 三浩	後志教育局 (社会教育指導班主査)

平成21年度 調査研究
《1年次》

『地域の教育力の捉え方』の共有化と『現状』の把握

1年次目は、地域の教育力についての概念の共有化について、目指す地域の姿を明確化した中で、それに向けてどのような力を働かせるのか、身近な視点からの整理として、人材に着目して、その力を作用させる意義の共通理解、また、各市町村が行う既存事業において、地域の教育力（人材）の役割と機能性を検証し、効果的な社会教育事業の実施に向けた課題等の分析を行った。

具体的には、『地域の教育力の捉え方』を共有するため、社会教育関係機関と連携を図り、種々の研修会を活用した理論研修を行い、また、管内市町村の実践事例を収集し、現状把握と傾向を分析するための事例検証を行った。

理論研修『地域の教育力の捉え方』

平成21年度に実施された各種研修会において、『地域の教育力の捉え方』について、後志管内の現状に応じた『捉え方』を導き出せるように、ポイントを絞りながら段階的に協議を積み重ねた。以下、各種研修会のポイントを整理していく。

【第1回後志管内社会教育主事等会議】

地域の活力や元気の源を探る！

地域で頑張っている人や団体を抽出する

⇒ “どうして” “どのように” 元気なのか

⇒ 地域や住民に “どんな良い影響” もたらしているか

【後志教育研修センター社会教育研修講座】

実生活とリンクさせた当事者意識を大切に、目指す地域の姿を明確にする

関わりのある事業の洗い出し

成果をあげるためのキーワード

目指す地域の姿…〇〇に住む××の現状は△△だが、本当は□□したい」

【道央ブロック社会教育研究協議会】

「地域の教育力」をどう捉えるか

地域の教育力を定義する

イメージの共有化

- ⇒地域の教育力の向上を議論する前に、その意味をしっかりとらえ、共通理解を図る
- ⇒地域の教育力に関する様々な視点と可能性を探る

【後志教育研修センター社会教育研究委員会】

地域の教育力向上をイメージした取り組み

教育的に値のある力を活用し付加価値を高めること

学習成果の活用による事業

- ⇒市町村ごとに取り組み事例の検証
- ……“該当事業なし”が大半を占める恐れ
- 『事業』を中心に考えるのではなく、『人材』を中心に考えて事例検証を行う

【後志管内社会教育主事等研修会】

地域の人材等を活用した事業（地域の元気を注入した事業）

地域の〇〇を解決したい

解決するための手段として人材の手腕が必要となる

- ⇒活用する上で気をつけるべきポイントや工夫している点を検証
- ⇒更なる高い成果を得るためにどうしたら良いか（課題）の検証

以上の結果をふまえて、社会教育研究委員会では『地域の教育力』の共有化を図るために、ものや自然、文化などあらゆる教育資源の中から「人材」に視点を置くこととした。

また、「現在の課題や問題点等を次にどう生かすか＝地域の元気の源である“元気な人たち”のパワーや活力を、どう事業に反映させるか」、「地域の教育力が「高い」もしくは「低い」と思われる分野、それをどう伸ばすか、または引き上げるか」ということが、以後の研究に課題として示すことができた。

現状把握・分析『後志管内の事例検証』

「地域の元気な人たちが活躍する事業」として後志管内の各市町村から実践事例を収集し、現状把握と傾向の分析を行った。結果については以下に示すとおり。

事例検証～地域の元気な人たちが活躍する事業～

事業名	目的	活躍している人	成果	改善すべき点
かかし古里館 土曜日講座 【共和町】	<ul style="list-style-type: none"> 昔と現在の生活の比較 現在の生活に役立つ「知恵」を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者 農業・鉱業など様々な産業経験者 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化、風習を学ぶ場として効果が高い 実体験を伝える場としているため、語り手も学習（工夫）する場になっている 	<ul style="list-style-type: none"> 昔の話を上手く伝えられる人材育成が必要 活動の実績を残すための記録が必要
文化振興事業 【寿都町】	<ul style="list-style-type: none"> 文化と笑いの提供 文化を通じた町民間の交流 	<ul style="list-style-type: none"> 町内の高校生以上 主婦、自営業、各団体代表、フリーアルバイトら異業種メンバー 	<ul style="list-style-type: none"> メンバーが育つ 町民が文化に注目・関心を寄せるようになった 文化センターが活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会としての位置付けを明確にすること
にきウインター フェスティバル 【仁木町】	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながらできるイベントの開催 地域住民の新しいネットワークを構築 「フルーツパークにき」の冬期間利用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 商工会、農協、役場、社協、観光協会等異業種メンバー（20～40代） 他町からの参加者もあり 	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に準備・運営することで新しい仲間（ネットワークづくり）ができた 新しい冬の楽しみ方を発見できた 施設の利用増につながった 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員の固定化 実行委員の募集方法を検討 新しい人材の確保とネットワーク拡大
ふるさと講座 【ニセコ町】	<ul style="list-style-type: none"> リーダーバンク登録者の経験や知識の活用 町民の潤いのある生活づくりの推進 リーダーバンク利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーバンク登録者 小物づくり、外国語、文化、スポーツなどの分野で32名 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者は作品を作ることに喜びを感じるとともに、作品の出来栄にも満足していた 自分で材料を用意して作ってみたいという参加者もいた 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーバンク登録者の増員 活動ジャンルを増やし、様々な学習ニーズに対応できる体制の構築
総合型地域 スポーツクラブ の育成 【ニセコ町】	<ul style="list-style-type: none"> いつでも、誰でも、世代を超えてスポーツを楽しめる環境づくり スポーツを通じて地域づくりにつながる総合型地域スポーツクラブの設立 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ経験者 特に定年後や子どもが独立した人 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ行事に参加する人が増えた 行事を通じて顔見知りになる人も多く、スポーツが地域住民の交流のきっかけとなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業終了後も活動が継続できるよう、体制づくりを進める
チャレンジ教室 【京極町】	<ul style="list-style-type: none"> 地域の豊富な技量をもった人材の活用 子ども達の豊かな心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者学級、各種文化、体育団体の人々、管理栄養士、産業従事者等 	<ul style="list-style-type: none"> 集団作業や体験活動を行なう過程で、豊かな人間性と感性が育まれることにつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 得ようとする成果に対して、その活動が必要不可欠とする理由を明らかにする

事例検証～地域の元気な人たちが活躍する事業～

事業名	目的	活躍している人	成果	改善すべき点
春の青空文庫 【留寿都村】	<ul style="list-style-type: none"> ・本に親しむ活動との紹介 ・公民館図書室にある本の紹介 ・図書室の利用促進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・るすつおはなし隊 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業に合わせて実施したことで、多彩なプログラムを展開することができた ・道立図書館から貸出を受けたエプロンシアター等を活用することで、今までにないお話を紹介することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせする人材を発掘していく必要がある ・村外で読み聞かせをしている方に来てもらうことを検討したい。
子どもの居場所づくり推進事業 「おたる地域子ども教室」 【小樽市】	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の午前中に子どもが安心・安全に活動できる「居場所」づくり ・地域の大人が子どものためにボランティアとして協力できるネットワークづくりを進め家庭や地域の教育力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校PTA、町内会員、各種団体会員 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が地域の大人と「ふれあう」ことにより、安心かつ安全に楽しく過ごしている ・子どもたちがいつも考え、気をつけて行動するようになった ・子ども達の成長が手にとるように何え、家庭や地域の教育力向上に寄与している 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の学校では、年間を通じて1人のボランティアが活動しているので負担が大きい ・複数のボランティアスタッフを確保することが急務である
生涯学習講座 【真狩村】	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区生涯学習振興会及び住民一人一人の生涯学習の活性化農村の素材 ・人材・農畜産物の加工等を活かした生涯学習のあり方を学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会青年部 ・真狩高校2年食品加工分会 ・真狩農畜産物加工品提供者 	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する活動実践者の成果等を参加者に知ってもらう絶好の機会となった ・試食会を通して提供者と参加者の交流や情報交換を図ることができた ・食に関する活動実践者や興味を持っている住民の輪が少しずつ広がりを見せてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表や講演への参加者は少ないので、それらに々参加者を引き込むか ・食に偏らない新たな生涯学習活動の提供
水泳教室 【古平町】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象に水泳技術の向上と体力の増進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの常連利用者（無資格） ・有資格者（準指導者） ・役場職員（有資格・無資格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・まったく顔をつけられなかった子供がつけられるようになった ・バタ足しかできなかつた子供が面かぶりクロールをできるようになった ・面かぶりクロールしかできなかつた子供がクロールをできるようになった ・指導者自身の水泳への意欲の高まりにつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・無資格者の指導力向上 ・高齢化が進んでいるため後任の指導者をどう確保するか

今回の事例検証においては、事業に着目するのではなく、「人」に着目して各市町村の事例をあげてもらった。「地域の元気な人たちが活躍する事業」とテーマを明確にしたこともあり、ほぼすべての市町村から多様な地域住民が主体的に事業に参加している事例が報告されている。

傾向として、「人的ネットワークの構築」や「人材育成または活用」を目的とした事業が多いことがあげられる。右表に示したとおり、後志管内の教育委員会社会教育担当者は、人口に対して0.1%程度で配置されている自治体が多く、行政のみが主体的に事業を運営していくことは困難であることが推測される。地域住民が何らかの形で事業に関わりを持ち、あわよくば自主的な運営組織として活躍していくことが望まれているのではないだろうか。

「地域の教育力」の捉え方は、各自治体でこれまで培ってきた経過や地域の特性によって、各々に定義づけされるものであり、一概に統一した見解をすることができないことは、これまでの各研修会等において確認している。

それぞれの地域の中で、解決すべき課題を明確にし、解決するために必要な素材（人材も含めて）を揃えて、事業を進めていくことが重要となる。

事例の中で「活躍している人」に着目しながら、事業の「目的」と「成果」を比較して検証してみると、いくつかのパターンに分類することができるのではないだろうか。

一つ目には、イベント開催による「ネットワークの構築」である。この場合、事業の目的自体が「活躍している人」の目的と合致しており、成果も顕著に表れていることが特徴である。「にきウインターフェスティバル」では、スタッフも楽しみながらできるイベントの開催、地域住民の新しいネットワークの構築、「フルーツパークにき」の冬期間利用拡大を目的としており、そこに携わる住民も冬期イベントの必要性を感じて参加している。地域における明確な課題に向けて、地域の人々が自主的に活躍することで目的と合致した成果が上げられており、活躍している人自身にも、新しいネットワークの構築により、メリットが享受されているところが大きなポイントである。

二つ目には、講座開催による「人材の活用」である。この場合、事業の目的が、「活躍している人」と「一般の参加者＝受講者」の両方に向けて設定されている場合が多くみられ、活躍している人にも、受講者にも満足度の高い事業の運営が

表 市町村別社会教育担当者の状況

市町村名	人口 (A)	教委職員 (B)	人口割 (B/A×100)
後志支庁	237,518	117	0.049
小樽市	134,811	15	0.011
町村計	102,707	102	0.099
島牧村	1,916	1	0.052
寿都町	3,529	4	0.113
黒松内町	3,228	5	0.155
蘭越町	5,469	9	0.165
ニセコ町	4,703	7	0.149
真狩村	2,253	4	0.178
留寿都村	2,014	3	0.149
喜茂別町	2,529	4	0.158
京極町	3,436	7	0.204
倶知安町	15,451	13	0.084
共和町	6,694	8	0.120
岩内町	15,196	5	0.033
泊村	1,988	3	0.151
神恵内村	1,081	2	0.185
積丹町	2,682	5	0.186
古平町	3,845	5	0.130
仁木町	3,851	4	0.104
余市町	21,614	11	0.051
赤井川村	1,228	2	0.163

※教委職員数は社会教育担当者のみ（除教育長、含次長）

※住民基本台帳人口（平成21年12月末日現在）

※後志教育局作成社会教育担当者名簿（平成21年5月1日現在）

必要となる。人材の活用自体が地域の課題として浮き彫りになると、受講者の満足度や講座の必要性が低くなる恐れもあり、地域の課題解決のために人材を活用していくという目的の明確化が重要である。

いずれにしても、活躍している人が事業に関わっていく中で、改善すべき事柄も出てくることは予測され、当初の目的に沿って方向性を見失わないように継続していくことが「地域の教育力」の向上につながるのではないだろうか。

地域の教育力向上につながるポイント整理

活用される 人 材	効 果 や 課 題 な ど
人 材 バ ン ク 登 録 者 等 (有資格者等)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の伝統文化や実体験を学習できる場になる。 ○参加者に達成感を感じさせることができる。 ○参加者に交流をとおしてネットワークができる。 ○新たな知識・技能を学ぶ機会となる。 ○事業が地域住民の交流のきっかけとなる。 ○住民のニーズに対応できる人材バンクの構築及び育成(地域コーディネーター、ボランティアなど) →地域人材の把握
高 齢 者	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年の規範意識などを高め、郷土の文化の伝承者としての高齢者や定年後の団塊の世代の活用などが求められる。 ○参加者に新たな人間性と感性を育む機会となる。
中 高 生 等	<ul style="list-style-type: none"> ○次世代のメンバー育成につながる。 ○新規のネットワークが作られる。 ○少子高齢化に対応した指導者の育成
教 育 関 係 者 等	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちとの関係を構築できる。 ○家庭と地域との連携が作られる。 ○地域・学校等の意識改革
関 係 機 関 等	<ul style="list-style-type: none"> ○社協や観光協会等各種団体との連携及びネットワークの拡大 ○広域的な人材の交流とネットワーク化(村外の人材の活用) ○各種団体(民間～サポート企業との連携、NPO法人、高校等)との協働

2 年次研究に向けての着目点

- 住民の中で、何かをやりたい（やる気のある）という「言いだしっぺ」がいる
⇒それを汲み取っているか、活躍の場を提供しているか
- 住民自らのやる気に合致した、負担にならない程度の取組みをしている
⇒丁度良い塩梅でサポートできているか
- 指導できる人材や団体の発掘（再発掘）と育成の強化につながっている
⇒次世代のリーダー育成や活動の継承・継続を意識しているか
⇒子どもたちに「地域の先生（おじちゃん・おばちゃん・お兄ちゃん・お姉ちゃん）」と

後志教育研修センター社会教育研修講座 開催状況

- 日 時 平成 21 年 9 月 11 日（金）
- 場 所 後志教育研修センター
- 参加者 後志管内社会教育担当者等 12 名
- 内 容 講義・ワークショップ
「変革の時代における社会教育行政の役割」～地域の教育力の重要性～／「地域の教育力を向上させるための方策を探る」
- 講 師 北海道立生涯学習推進センター研修調査課 主査 阿部隆之 氏



受講者アンケートより

- 後志主事会研究部の導入はわかりやすい内容で良かった。
- 阿部講師の講義とワークショップは、これからの研究を進める上で大変参考になりました。
- 当事者意識、生活目線で考えることができ、理解が深まった。
- 力の源となる地域を元気づける継続性について取り上げてほしい
- 運営者の方、大変お世話になりました。
- ワークショップの時間が足りなかった。

平成22年度 調査研究
〈2年次〉

地域の教育力向上のための人材活用の視点を探る

2年次目は、管内及び全道の各市町村の取り組みや、民間の事例から人材活用の好事例を参考にし、教育力向上の視点である「つながり」「意識・行動」「活動や交流の場」の3つキーワードと関連付けながら、管内市町村において行われている既存事業の改善点を見出し、地域の教育力向上の方策を探ることとした。

具体的には、好事例がなぜ「うまくいっているのか」という要因の究明を行う理論研修と、既存事業を「どのように改善したらよいのか」という実践検証を行った。

理論研修『人材を活用した好事例』

平成22年度も1年次に引き続き、社会教育関係機関と密に連携を図りながら各種研修会において、『人材活用の視点』について協議を積み重ねた。

【第1回後志管内社会教育主事等会議】

後志管内事例から「地域の教育力向上」のための視点を整理する

- 共和町「きょうわ Jr. スキーキャンプ in ルスツ」
 - 積丹町「てんとうむし教室」
- ⇒ 人材活用の視点と教育力向上の視点を整理する

【後志教育研修センター社会教育研修講座】

民間活動事例を参考に「地域課題」と「人材活用」の関わり方を学ぶ

- JA 北海道厚生連倶知安厚生病院 黒木真寿美 氏
- ⇒ 医療・福祉の現場から、実践を通して感じたことを事例発表
⇒ 地域課題を解決するために必要な視点を提示

【道央ブロック社会教育研究協議会】

石狩・空知・後志3管内の事例から、地域課題解決のヒントを探る

- 地域の課題を解決しようとする実践者の具体的な発表及び交流
- ⇒ 発表を聞くだけでなく、発表者と交流を図ることでより具体的なヒントを探り出す

第2回きょうわジュニアスキーキャンプ in ルスツ



2月4日（金）～6日（日）の3日間、町内の小学校2年生から中学校1年生まで54名参加のもと「第2回きょうわジュニアスキーキャンプ in ルスツ」を実施致しました。天候にも恵まれ、スキーの技術向上はもちろんのこと、参加した児童たちは、学校や学年にとらわれずに同じ「きょうわっ子」として交流を深めていました。本書では、3日間の様子をご紹介しますとともに、本事業の報告とさせていただきます。



出発式では、後援いただいた共和スキー連盟・矢上会長より激励の言葉をいただきました。

共和スキー連盟を中心に編成されたスキー指導員の皆さん。



食事は朝・夕ともに豪華バイキング！配膳も自分で行い、自分の分は残さずきれいに食べられました！



スクールバスはほぼ満員状態でルスツリゾートに向けて出発！



■ 受講生が学んだ（感じた）こと

- ・ 人と人とのつながり
人との糸を紡ぐこと 思わぬ糸に助けられる その繰り返し
- ・ 共通の強い意識をもつ大切さ
- ・ アンテナをはる大切さ
- ・ 体重が減ったこと（うらやましい）
- ・ 強い思い 20年課題を持ち続ける 挫折しない
- ・ 自分と違うフィールドに飛び込む（まちづくり活動など）大切さ 新たなつながりを生む
- ・ 活動の場を作ること認められる⇒課題解決に向けて一生懸命あきらめずに取り組んでいくことで自然とそうなるのでは…
- ・ 病気や障害の人、その人らしく生きられる権利を保障すべきという考え方
- ・ 正しい知識により理解を広める、深めていく大切さ
- ・ 欲しいものはあきらめないで作り出すという考え方
- ・ ぶつかった時は『原点』に戻るという考え方
- ・ 思いが大事、強い思い、確固たる目的、自主的な動きにより、つながりや人との出会いが生れ課題解決に近づいていくのだなと感じた。なにより「楽しくやる」というのがすばらしいですね。今の自分には足りないことなのでとも見習うべきことです。
- ・ 大事なことからこそあきらめないで思いつづけ、筋の通ったことを強い気持ちでぶつかってきたからこそ思いが通じ、得られたものも大きかったのではないかと感じる。
- ・ 自分の職場は縦割り社会で身内同士ではじきあっている。縄張り争いをしないように環境を何とかしていきたいと考えている。
- ・ 足を使うことの大切さ。行動に起さないと何も始まらない。
- ・ 人が好きだから、出会った人と上手くつながりを作っていけるのでは。
- ・ 自分が楽しくやっていることで、人々との関わりもうまくやっていけるのではないかと
- ・ 好きなことを力いっぱいやる⇒格好良い
- ・ 実現しようという思い⇒中々持てない
- ・ 楽しくやる⇒大変なことの中にも楽しみを見つけ出すのが上手
- ・ 交流・ネットワーク⇒1人ではできない
- ・ 精神保健士という職名は初めて聞いた。とても勉強になった。
- ・ 強い思いと、人々との関わりとの間で、独り善がりにならずにバランスよく動けるのはすごい

事例①【石狩管内・恵庭市】

地域の教育力ってなに？～柏地区通学合宿から見てきたもの～

◎地域の教育力を向上させる要素＝< 重要：行動を伴うつながり >

- 地域を語り合う関係（連帯感）
 - ・地域の存在を感じている
- 束縛のない関係
 - ・地域に目を向ける
- 地域への愛着心（ふるさと意識）
 - ・子どもは地域の宝物という意識
- 新たな地域活動の創出
 - ・幅広く行動し、ねらいを持って活動する
 - ・大人が楽しみながら活動を継続

◎保護者へのアンケート結果より

- 温かい町内会
 - ・私も協力したいと名乗り出てくれる
- 子育ては一人じゃできない
 - ・近所と顔見知り

◎8町内会長を中心に活動

- 学校と家庭の橋渡し（つながり）的存在
⇒地域（町内会）という意識を持って！

事例②【空知管内・南幌町】

大学と連携した社会教育中期計画の策定～住民聞き取り調査の実践を通じて～

◎大切なこと

- 社会教育委員の意識の向上～全道社会教育研究大会への参加
- 「住民に任せて良いんだ！」という行政の気づき
- シナリオなしのワークショップ～住民が自主的に参加できる機会（幅広い意見の把握）
- 「住民による住民のための計画づくり」～実行力を伴う計画に！
- 新住民と旧住民の意識の共有（コミュニケーション）

事例③【後志管内・真狩村】

ハーブ豚まつりをとおした新たな“ネットワーク”と“まちづくり”

◎交流の中で出された意見

- 関わった人たちが学んでいくプロセスが社会教育
- 住民にけしかけたり、気付かせたりすることが必要な時があって、そこを我々が仕事として取り組んでいる
- 社会教育と社会教育行政はまた違う
- 自分は地元にある青年部3団体で、町おこしに通じる活動をしている。最初は「地域のために」という視点だったが、今は「面白いこと」になっている
- それぞれ住民の顔と仕事の顔をもった中で、住民の活動もしている
- 6人で始めたことが今は10人以上でやっているのが立派なネットワーク
- 一人でやっていないことが社会教育
- 子から高齢者までが集まる交流の場になっていることが社会教育
- 町には、ハーブ豚まつりのように自ら行動を起こせる人ばかりではなく、町全体を活性化させるために、私たちは多くの住民の意識を変えることが仕事と思っている

実践検証『パワーアッププラン』の作成

人材活用を生かした好事例を基に、人材活用の視点を整理した上で、既存の事業を「どのように改善するか」を具体化するため、実践検証を行った。

検証を行うにあたって、1年次の調査研究成果を生かしていくためにも、「事業」を前提とするのではなく、あくまでも「人材」に着目することを重視するため、当事者が自己評価・検証を行うのではなく、第三者から見た客観的な評価や検証を行うこととした。

具体的には、後志管内社会教育主事等研修会開催時に、管内市町村で取り組まれている地域の教育力向上を目指した事業について、当事者（社会教育担当者）が抱えている「改善点」を、他町村の社会教育担当者が第三者として解決への「手がかり」を助言するという手法を用いた。

当事者が「改善点」に気付きながらも「改善」に結びつけることができない要因として、地域の教育力＝『人材』を上手く活用できていない可能性があることも推測され、他市町村の人材活用の目線から課題解決への具体的方策「パワーアッププラン」を導き出す、というのがねらいである。

4～5人編成でグループワークを行い、「自分の町ならこういうこともできるかな」といった、自分の町に置き換えて人材活用の手法を示したり、「自分の町にもこんな人がいたらいいのにな」という、互いに共通の求める人材を確かめ合うなど、事業展開の良し悪しではなく、どのような人材を活用することによって改善すべきかについて討議が深められた。

検証の結果は、次に示すとおりである。

グループ討議② ⇒ ①のメモ

小グループでの討議を、それぞれまとめてみましょう！！
3つのキーワードで行き詰ったら、事例報告にあった「取組み」や「成果」に出てきた“言葉”をテーマに、討議を深めてみよう！！

市町村名 _____
氏 名 _____

【ステップ2】 ⇒ どんな力を必要とするのか？
例）住民？ 環境？ 仕組み？ 意識・行動？

【ステップ3】 ⇒ 仕掛け人・調整役は誰が適任？
例）社会教育主事または担当職員？ 住民？
地域のキーマン？

地域の教育力向上に向けての「パワーアッププラン」
※上の2つが具体的にできれば、自ずと今後どうすべきかわかるはず！！

グループワークを行う際に活用したワークシート。ポイントを具体化できるよう工夫した。

実践検証～地域の教育力向上のための方策を探る～

事業名	改善が必要なところ	必要とする力【ステップ2】	仕掛け役・調整役【ステップ3】	パワーアッププラン
スクールガード 【真狩村】	スクールガード登録者数が少ないため、地域に広く理解を求め、協力者を増やしていきたい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の子どもを見守りたいという意識 ■ 子どもと接する機会を高齢者の楽しさや生きがいにつながる活動内容 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域のキーマン ■ 関心のある住民 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加して欲しい対象が、参加しやすい環境づくり（活動内容・形態・場所・時間を参加者目線で設定する） ■ 地域の自治会など、協力を仰げそうな組織の分析 ■ 習慣化できるはたらきかけ
文化振興事業 【寿都町】	若者のメンバーが少ないので、若年層を参集でき、活動のリーダーとなる人材を組み込むこと	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中心となっている実行委員に新メンバーの加入を求める ■ 公演内容（ターゲットの年代）を変える ■ 音楽に関わる人をメンバーのターゲットにする ■ （実行委員に加わる）メリットがあるものを用意する ■ エコ進行事業等、若者が興味あるものを用意する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実行委員のメンバー ■ 若くてリーダーシップを取れる人材 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲットを若者向けに ■ 現在の実行委員に新メンバーの加入促進を担ってもらう ■ 若いリーダーシップを発揮できる人材の発掘
読書推進活動 【留寿都村】	子ども達には、漫画やアニメ本ではなく、小説にも興味を持てるよう工夫をする必要がある。一般の人には、本屋で売られている話題作を取り入れ、図書室の利用者を増やしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本の修理サークル（ニセコ町） ■ 選書ツアー（バスで大きな本屋に行き、参加者1人2冊まで本を買えるようなツアー） ■ 近隣図書館へ視察（ニセコ、京極、石狩、恵庭はお手本になる） ■ 道立図書館をお手本にする ■ テーマを決めて本を購入する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボランティア ■ 本の貸し出しを行うボランティア ■ 今までどおり生涯学習推進員 ■ 担当職員 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道立図書館、ニセコ町、京極町、石狩や恵庭の図書室を見に行き、良いところを取り入れる ■ 選書の基準を作る ■ 多くのボランティアを募り、購入する本に偏りのないようにする

実践検証～地域の教育力向上のための方策を探る～

事業名	改善が必要なところ	必要とする力【ステップ2】	仕掛け役・調整役【ステップ3】	パワーアッププラン
総合的な学習の時間「今と昔の京極町の移り変わり学習」 【京極町】	協力者にどこまでの対応を求め るか、これに対応できるまでの 力量を持ち合わせているのかの 判断と、ただその場に居合わせ ているだけでよいという性質の ものではない場合は、ある程度 のフォローが必要となってくる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ やわらかい切り口からアプ ローチする ■ 場所（湧学館）を活用 ■ 体験を伴う学習活動 ■ シリーズものにする ■ 成果を示す場（参加者、保護 者、担当者が同じ時間を共 有） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 依頼する側（主催者） ■ 子ども（を通じて親や 知人） ■ 先生 ■ P T A 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕掛け人・調整役が一番学び習っ ている人となってしまっている。 参加者と協力する側が共に学び合 える仕組みへ ■ 地域の施設を利用（昔の話をする 雰囲気も重要⇒歴史展示コーナー 等） ■ 一度で終わらず、やりたいこと、 伝えたいことを数回に分けて時間 をかける ■ 学習成果を共有する場を設け、意 識付け、意欲の強化につなげる ■ 多くを得る、引き出すため、わく にとらわれないように調整
きょうわ Jr.ス キーキャンプ in ルスツ 【共和町】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者が増えるとスタッフも 増員する必要がある ■ 目的や子どもとの接し方など の共通理解を徹底していくこ とが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者と交流の場⇒参加し た成果を見せる ■ 参加者と保護者とスタッフ が成果を感じられる場 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者（子ども）が保 護者を引き込む 	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンプの成果を発揮する場（ス キー大会、バッチテスト）をプロ グラムに取り込む
寿大学ボラボ ラサークル 【ニセコ町】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在は学生の中で希望者が参 加するサークル活動の形態を 取っている。より多くの方に 参加してもらえよう働きか ける ■ 学校が希望する支援活動につ いて、聞き取り調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ お年寄りに発表会などの小 道具をつくってもら ⇒特典として発表会総練習を 見てもらう ■ 高齢者の力を学校に活かす ■ 子ども力を寿大学の改善に ■ 具体的にお年寄りのできる ことを依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ■ P T A 役員の理解を 得る ■ 自ら P T A 役員に ■ 学校以外の場（郷土資 料館の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校+教委に P T A の理解（地域 の理解）で相互の力を上げる ■ 社会教育主事も黒子役で

実践検証～地域の教育力向上のための方策を探る～

事業名	改善が必要なところ	必要とする力【ステップ2】	仕掛け役・調整役【ステップ3】	パワーアッププラン
子どもの居場所づくり推進事業「おたる地域子ども教室」 【小樽市】	<ul style="list-style-type: none"> ■一部の学校では、年間を通じて一人のボランティアが活動しているので負担が大きい ■複数のボランティアスタッフを確保することが急務である 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> ■担当職員 ■各団体の長 ■自治会の長 ■PTA 	<ul style="list-style-type: none"> ■当たってくださる
水泳教室 【古平町】	<ul style="list-style-type: none"> ■指導者が高齢化 ■指導者が望む指導と担当職員との違い（指導者の中にもっとやりたい、との声がある） ■指導技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■若い人と一緒に指導（関わらせる） ■おだてる、サブからスタート、いつのまにかメインに ■ベテランから若手への移行 ■若いか出やすい環境を整えてやる ■安全確保の要員からスタートして ■子どもと一緒に遊んでくれる人 ■技術的にこだわらない 	<ul style="list-style-type: none"> ■担当職員 	<ul style="list-style-type: none"> ■対象を広げた水泳教室の実施
公民館講座（食に関する取組み） 【真狩村】	<ul style="list-style-type: none"> ■食に関する取組みをされている地域の人や団体の方々が活躍している事業ではあるが、あくまでも事業主体は行政であり、その人たちを紹介することが主となる事業展開になっている。 <p>⇒活躍する方々自身が、協力（客体）から主体へ※商業や観光に携わる方たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■体験型の内容 ■共有の場 ■日常の活動 ■意識の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ■参加者自体（子ども） ■PTA 	<ul style="list-style-type: none"> ■食の講座を集大成にする（5年目でひと区切り） ■これからは後方支援

実践検証～地域の教育力向上のための方策を探る～

事業名	改善が必要なところ	必要とする力【ステップ2】	仕掛け役・調整役【ステップ3】	パワーアッププラン
ぎんざんホテルマラニック 2010 【仁木町】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 町外からの参加も多数ある事業なのに町内の一部地域だけで行っている状況であり、今後は町体育協会、スポーツ指導委員の協力を得て、全町的な参加を促す必要がある ■ 先導と連絡係はバイクで動いていたがリタイヤ等のための救護車を用意する必要あり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者として小中学生を引っ張れば親もついてくる ■ 総合型地域スポーツクラブというネーミングのつけ方を工夫する ■ ボランティアスタッフを募集する ■ 参加する子どもの保護者をスタッフにする 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者（子ども達） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校、子ども会等の協力を得て周知し、子どもの参加を促すことにより保護者の参加も増える⇒参加者に関わりのある体育協会役員、スポーツ指導委員が動いてくれる ■ 熱心にそのスポーツをしている住民をスタッフに引き込む

後志教育研修センター社会教育研修講座 開催状況

- 日時 平成22年9月9日(金)
- 場所 後志教育研修センター
- 参加者 後志管内社会教育担当者等 14名
- 内容 ①導入「地域の教育力活用の意義と効果」
②講義「課題解決に向けた人と人との関わり～医療・福祉の現場から～」
③演習「地域の教育力を高める方策モデルを考察」
- 講師 ①・③北海道立生涯学習推進センター研修調査課 薄葉 康 氏
②J A北海道厚生連倶知安厚生病院
精神保健福祉士 黒木 真寿美 氏

【導入・演習のまとめ】

導入では、教育基本法や社会教育法改正の内容などについて再確認し、学習成果を活用し、地域の教育力向上について、その意義と効果を学んだ。

演習では、参加者が各地域で抱える地域課題について、地域の教育力向上の視点である「つながり」「意識・行動」「活動や交流の場」を意識しながら、地域課題の要因・背景や課題解決に活用できる地域資源について、グループワークを通して考えた。

【講義のまとめ】

社会教育研究委員会では、地域教育力向上のためのポイントの中でも人材活用に注目し調査研究を進めてきたが、なかでも具体的な事例として医療・福祉現場における地域課題と人材活用について、講義を通し考察していくこととした。

黒木氏の講義では、精神保健福祉士として患者と接する中で、患者が社会復帰をする上での課題に直面し、その解決に向けて人と人のネットワークを築きながら進めている活動について学んだ。講義の中であげられたキーワードの中には、社会教育関係者にも共通する大切な視点があると多くの参加者が感じた。

受講者アンケートより

- コマの中はギッシリ詰まっていますが、全体にゆったりしていて良かったです。
- 黒木さんのお話は、社会教育の仕事をする上で参考になる部分が沢山ありました。
- 切り口は違ってても、手法は使える。我々の仕事につながる所が多かった。知る、知らせる事が最大の解決へ近道。
- こういう研修で地域課題についてグループワークをする機会がとても多く、参考になる意見が沢山出ていますが、意見を出すだけで終わってしまいます。上司に話しても許可がおりなかったり、意見を出せるような雰囲気でもないの、せっかく地域でいかせるような意見をもらっても実行できずにいます。どうすれば良いのか悩んでいます。

研究のまとめ

1) 後志管内における地域の教育力とは

地域における教育力の概念の共有化を図るために、ものや自然、文化などあらゆる教育資源の中から、「人材」に視点をおくこととした。

※北海道における地域の教育力とは、平成21年12月にだされた北海道生涯学習審議会の提言において、「住民自らが認識した地域の課題について、それを自ら解決し、地域としての価値を創造していくための力」であるとの定義化がなされている。

2) 活用される人材とその効果

活用されている人材を探り出し、どのような人材が活用されているのか。また、その人材が活用されたことにより、事業でどのような効果や課題などがでたのかを検証した。

①効果について

関係やネットワークの構築といった効果が多くみられ、管内の社会教育担当者にとって、その人の持つネットワークが広ければ広いほど教育力が高いと感じていることがうかがえる。

②課題について

協力者がもっている意欲と引き受けることで生じる負担。それらの調整をどのように適切に行ったらよいのかということが課題としてあげられている。

3) 教育力向上に必要な3つのキーワード

北海道立生涯学習推進センターが行った調査で、全道における社会教育担当が必要と感じる3つの視点が浮かび上がった。

①つながり

「学校・家庭・地域の連携」「地域住民同士のコミュニケーション」

②意識・行動

「地域全体で子どもを守り育てようとする意識」「地域住民が地域課題に対して主体的に行動」

③交流や活動の場・機会

「異世代間の交流の場」「子どもたちが活動できる場所や機会」

道立生涯学習推進センター研究調査報告書第30号より

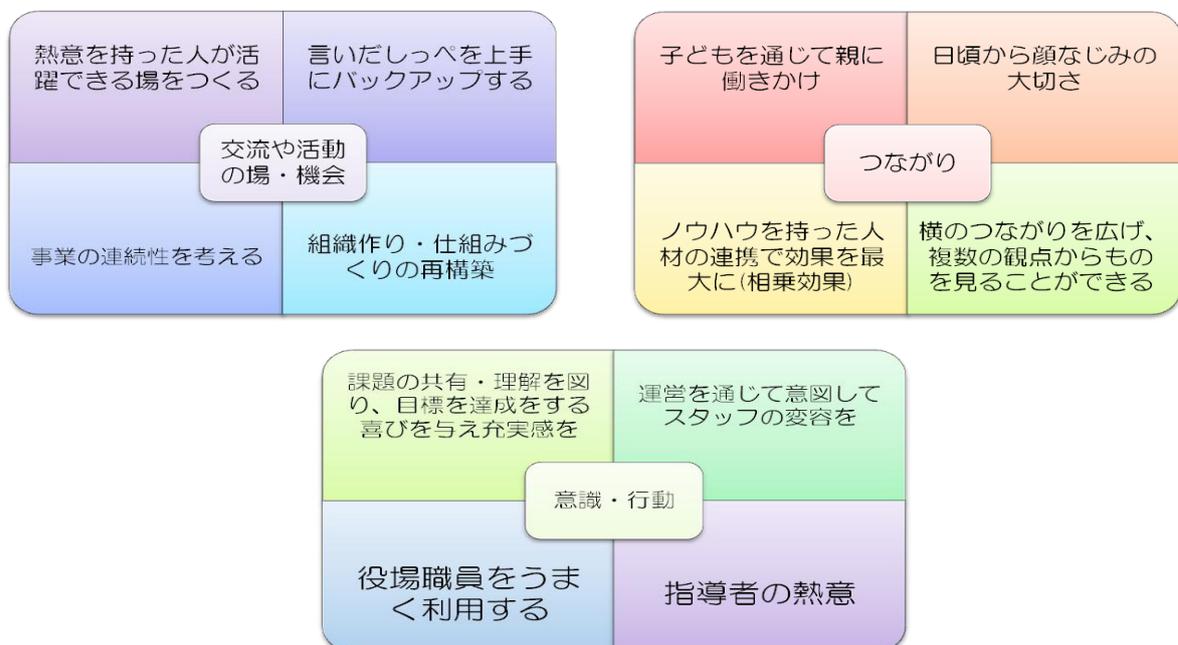
4) 人材の具体的な活用方策

管内の2事例を参考に人材活用の視点を探り、教育力向上に必要な3つのキーワードと関連づけて図のようにまとめた

①参考事例

- ・共和町「きょうわ Jr スキーキャンプ in ルスツ」
- ・積丹町「てんとうむし教室」

②人材活用の視点とキーワード



5) 人材による事業改善の具体的方策について

地域の課題を解決するために行っている社会教育事業に特化し、「社会教育事業を地域の住民の力をかりて改善することによって地域の教育力を向上させる」ことを目的としてグループワークを行い、改善のポイントを人材活用の効果や視点を参考にしながら各市町村事業のパワーアッププランを作成した。

①ステップ2：必要とする力(改善の視点)

- ・参加者だけでなく運営者とも事業の成果を共有する。
- ・住民へのアプローチの方法(人材のネットワークを利用)
- ・参加することによるメリット

②ステップ3：仕掛け人・調整役

- ・PTA(幅広いネットワーク)
- ・子ども(子どもをつうじた保護者へのアプローチ)
- ・社会教育担当者

6) まとめ

従来の研究の多くは事業に焦点が当てられ、どういった事業を展開するのかということに重点が置かれてきた。しかしながら本研究では、運営スタッフや講師、ボランティアなどとしてすでに社会教育事業に関わっている人材に焦点を当て、その人材をより効果的に活用することでその事業が改善することが地域の教育力向上につながるのではないかと考えた。社会教育事業は地域の課題解決を目的として行われている前提のもと、その事業が改善されたということは地域の教育力が向上するとし、その人材の活用方策こそが地域の教育力の向上のための方策であると位置付けた。

我々社会教育担当者は、地域の教育力の向上を目指すべく様々な事業に取り組んでいるが、ともすれば参加者ばかりに目がいてしまいがちである。しかし、1年次調査研究の中でも指摘しているが、後志管内の教育委員会社会教育担当者は、人口に対して0.1%程度で配置されている自治体が多く、行政のみが主体的に事業を運営していくことは困難であり、今後は住民と協働で事業を展開することが求められる。2カ年の研究の中で探り出した効果や視点の中では、ネットワークや連携という言葉が多くみられ、管内の社会教育担当者の中でも住民との「つながり」を重要視していることがうかがえる。

住民と「つながり」ながら社会教育事業を展開する中で、人的ネットワークを広げ、地域の課題を明確にし、その課題を運営者、参加者がともに共有し、解決方策を見出すことが社会教育の果たすべき役割となるのではないだろうか。

平成 22 年度 研究紀要

『変革の時代における社会教育行政の役割～地域の教育力向上のための方策～』

発 行 後志教育研修センター
〒044-0013 虻田郡倶知安町南 3 条東 4 丁目
T E L 0136-22-1337・F A X 0136-22-2681
E-Mail skc@cocoa.ocn.ne.jp

編 集 社会教育研究委員会

協 力 後志社会教育主事会・後志管内各市町村教育委員会

発行日 平成 23 年 3 月